

一般書

順位	本の名前	作者
1	風に立つ	柚月 裕子
2	定食屋「雑」	原田 ひ香
3	青瓜不動	宮部 みゆき
4	捨てたい人捨てたくない人	群 ようこ
5	魔女と過ごした七日間	東野 圭吾

児童書

順位	本の名前	作者
1	パンどろぼうとほっかほっカー	柴田 ケイコ
2	もりの100かいだてのいえ	いわい としお
3	そらめくんのこしよこしよ	なかや みわ
4	パンどろぼうとなぞのフランプン	柴田 ケイコ
5	だるまさんの	かがくいひろし

おすすめ図書



一般書

『まんがでわかるだましの手口』

佐藤 正明 / 著
堺 次夫 / 解説
東京新聞（2023. 9）

日常生活で普通の市民が巻き込まれがちな犯罪やトラブルの手口の詳細と対策を、4コマまんがとともに解説する。『東京新聞』など連載を再編集し、書き下ろしを加えて単行本化。



児童書

『思いを伝える「話す力」』

竹内 明日香 監修
Z会（2023.10）

4人の小学生の物語を通して、〈いたいこと〉を相手に伝え、変化を起こす「話す力」の重要性を説く。未来のために、いま小学生に知っておいてほしい大事な考え方を身につける学習読み物。



写真は、氷上町賀茂の賀茂神社の本殿正面上方にある彫刻です。左側に機織りをする織姫、右側に牛を牽く彦星の彫刻があります。これにはかつて、鮮やかな色がついていたようですが、現在は色褪せてしまい、元々の色を確認することができません。『丹波市の歴史的建造物Ⅲ』には、延享4年（1747年）に棟上げされた事を示す札の写真が残し、現存の本殿は18世紀後期のものであると記されています。このことから、彫刻も同時期に造られたものと推測すると約280年前のものになります。

江戸時代に書かれた『丹波志』には、当社は京都の上賀茂神社を勧請したと記されています。勧請とは、神さまに来ていただく、お祀りすることです。その神さまが賀茂別雷大神で、当社本殿には雷を表現した彫刻もあります。ちょうど織姫と彦星が彫られている反対側に付けられています。また、同書には「境内に池があり蛇



丹波市文化財保護審議会委員
山内順子

歴史探訪

織姫と彦星の彫刻

シリーズ まちかど文化財

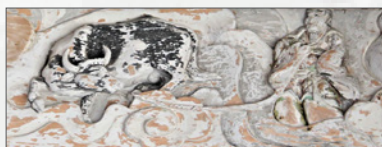
池という。石に龍をかたどって作り込んだ石の蓋がある。早魃の際には雨乞いのためにその蓋を取るとたちまち雨が降るといふ」と書いてあり、現在は龍をかたどった石の蓋はありませんが蛇石神社として大切に祀られています。

一方、織姫や彦星にとつて、ようやく会える七夕の日に雨は降ってほしくないはず。しかし、降雨を願う蛇石神社と、晴れを願う織姫と彦星の彫刻がある賀茂神社が同じ敷地内にあるのは不思議な気もしますが、おそらく、雨天も晴天も過ぎると害になるので、バランスが大切ということなのでしょう。

今年の七夕には星空を見上げるだけでなく、織姫と彦星の彫刻を見に行くというのも素敵です。



織姫



彦星

問社会教育・文化財課（山南庁舎内）
☎ 70 - 0819

たんば食育 クッキング



タンドリーチキン

1人分 エネルギー：約 226kcal・食塩相当量：0.7g・調理時間：約 20分

※鶏肉を漬け込む時間は除く

※日本食品標準成分表 2020 版（八訂）を基に計算

健康課（健康センターミルネ内） ☎ 88 - 5750

材料（2人分）

鶏むね肉 皮付き	1 枚
A 塩	小さじ 1/5
コショウ	少々
にんにく（みじん切り）	小さじ 1
植物油	小さじ 1
B プレーンヨーグルト	60g
カレー粉	小さじ 1
レタス（細切り）	60g
玉ねぎ（スライス）	1/4 個
レモン	適宜

つくり方

- ①鶏肉は6等分に切り分け、Aをまぶす。
- ②ポリ袋にBを入れよく混ぜ合わせ、①を加えてよく揉んで、冷蔵庫に一晩置く。
- ③玉ねぎは軽く水洗いして水気を切り、レタスと混ぜ合わせる。
- ④フライパンに油を熱し、②を皮が下になるように入れ、蓋をして、こんがりと両面に焼き色を付ける。
- ⑤皿に盛り、③の野菜とレモンを添える。



ヨーグルトに漬け込むことで、柔らかく仕上がります。カレー粉と香ばしく焼き上げた香りで、少ない塩分でも満足できます。

乳幼児に多い夏の感染症

夏に乳幼児の間で流行しやすいと言われている感染症に、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）などがあります。

手足口病 発熱、口やのどの痛み、手足の発疹、水疱、口内炎などの症状が現れます。高熱が続くことはあまりないと言われています。

ヘルパンギーナ 発熱、のどの痛み、全身の倦怠感、口内の水疱性発疹などの症状が現れ、口内の痛みが強い場合は、不機嫌が続いたり、食事や授乳を嫌がったりすることがあります。

咽頭結膜熱 発熱、のどの痛み、結膜炎による結膜の充血などの症状が現れます。プール熱とも呼ばれます。

これらの感染症は、例年5～6月頃から流行し始め、7～8月頃にピークを迎えると言われています。どの感染症も、接触感染、飛沫感染が主な感染経路のため、予防には、マスクの着用、手洗い、タオルの共用を避けることなどが有効です。

また、こどもの症状が落ち着き、元気になっても、2～4週間は便の中にウイルスが排出されるため、お

むつ交換のあとは、忘れずに手を洗いましょう。

しっかりと予防に努めていても、幼いこどもは感染症にかかりやすいものです。先に述べた夏の感染症は、ワクチンや特効薬がないので、症状に合わせた対症療法が中心となります。症状は数日から1週間程度で落ち着くことが多いので、まずは慌てずにかかりつけ医を受診しましょう。

発熱時は、衣服や布団は薄めにし、熱がこもらないようにします。入浴は控えて、汗をかいたら蒸しタオルで体を拭いて、着替えましょう。汗をかくと体の水分が失われるので、こまめに水分補給をしましょう。

のどの痛み、口内の痛みがひどい場合、機嫌が悪くなったり、食事を嫌がったりすることがあります。そのような場合は、のど越しのよいプリンやゼリー、アイスクリームなど、摂取しやすいもので栄養をとりましょう。また、熱があっても活気があり、水分や食事が摂れていれば、慌てて受診をする必要はありません。反対に、水分がなかなか摂れない、半日以上おしっこが出ない、ぐったりしている場合は、急いで受診をしましょう。

健康課（健康センターミルネ内）
☎ 88 - 5750